

次号
予告

特集

周術期マネジメント

最近の高齢化を反映し、内科疾患を多数合併した患者の手術症例が増加しています。また、今まで通院歴がなくても、外科手術の術前評価でさまざまな合併疾患が判明することもあります。術前評価は、一般的には手術のために検査をするという目的で行われますが、手術とは関係なしに評価することは、長期予後改善のよいチャンスとなるとも言われています。例えば、喫煙者であれば、手術を無事終えるためにすぐに禁煙をしてもらわなければなりません。それをきっかけに引き続き禁煙に成功し、長期予後が改善することも期待できます。今まで判明していなかった労作性狭心症が病歴で判明し、より厳格なリスク因子の治療、アスピリン・スタチン導入のチャンスになるかもしれない、といったことです。

周術期マネジメントは、外科と麻酔科だけでなく、内科にも大きな役割があると言えます。米国内科研修では「手術の予後改善における内科医の役割」についての講義があり、ホスピタリストサービスのローテーション中には多くのコンサルトを受けます。一方、日本では、内科医に対する周術期トレーニングはまだ不十分、というより、ほとんどなされていないのが現状ではないでしょうか。

ホスピタリストが周術期の知識、スキルを身に付け、その役割を果たせることが、患者ならびに医療全体のために必要であると考えます。本特集では、その一助となることを目指します。

はじめに

1. 周術期内科コンサルトのころえ

[コラム] 術前ルーチン検査とは？

[ミニコラム] American Society of Anesthesiologists (ASA) physical status classification とは？

2. 循環器リスク評価、リスクを減らすには？

[コラム] 周術期の急性心筋梗塞

[ミニコラム] 慢性投与のβブロッカーの周術期の注意点、使用法

[ミニコラム] 術前心エコーは必須か？

[ミニコラム] 高血圧症の周術期マネジメント

[コラム] 弁膜症と非心臓手術：重症AS

3. 周術期の抗血栓薬の扱い：常に中止したほうが安全か？

[コラム] 周術期と不整脈：埋め込み型除細動器、ペースメーカー患者の周術期の注意点

4. 呼吸器編：リスク評価とマネジメント

[ミニコラム] 重症肺炎腫でも安全に手術は行えるか？

[ミニコラム] OSASの周術期マネジメント

5. 消化器編：肝硬変患者における手術

[コラム] 肝硬変患者の周術期管理

[コラム] 術後肝機能異常コンサルト対応法

[ミニコラム] indocyanine green clearance (ICG) テストの有用性はあるか？

6. 腎臓編：腎疾患の周術期リスクとマネジメント

7. 内分泌編：①糖尿病・血糖コントロール

②副腎、甲状腺、副甲状腺、下垂体

[ミニコラム] ステロイド：高用量は手術の禁忌か？

[ミニコラム] 副腎不全の周術期の問題点

8. 神経内科編：脳梗塞、その他の神経疾患の周術期マネジメント

[ミニコラム] 脳血流の自動調節について

9. 整形外科手術における内科医の役割

[コラム] 全身麻酔と局所麻酔の使い分け

[コラム] 周術期の薬剤の中断について

[ミニコラム] 眼科手術における内科医の役割：白内障手術での術前評価は？

[コラム] surgical site infection (SSI) 予防について

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

■ Vol.1 (2013年)

No.1 ホスピタリスト宣言

No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

No.1 腎疾患

No.2 膠原病

No.3 消化管疾患

No.4 緩和ケア

■ Vol.3 (2015年)

No.1 呼吸器疾患1

No.2 外来における予防医療

No.3 循環器疾患1

No.4 血液疾患

■ Vol.4 (2016年)

No.1 代謝内分泌

No.2 周術期マネジメント

No.3 腫瘍

No.4 他科の知識1

2/27開催の第3回JHNセミナー報告記を164ページに掲載しました。プログラム後半は4つのグループセッションに分かれており、報告も4人の先生方にお願ひしました。会場でいきなりお声がけしたにもかかわらず快諾してくださり、ありがとうございました。第6号「緩和ケア」特集号では、編集の関根先生、八重樫先生とご相談し、「全入院患者に緩和ケアを」という副題をつけました。報告記は、産婦人科まで含めたさまざまなフィールドでこれを実践しようとしている、現場からの生の声となっております。共感される方も多いのではないのでしょうか。次回は10月の予定です。JHNならではのテーマを準備中です。詳細情報をお待ちください。さて、刊行が遅れて申し訳ありませんが、新年度となりましたこの時期、新しい仲間にもHospitalist誌をご推薦いただくこともどうぞお忘れなく。

● 広告一覧

JHospitalist Network……29

医学書院……162, 163

米国内科学会日本支部……iv

Vol.4 No.1 2016年3月1日発行〔年4回(3, 6, 9, 12月1日)発行〕

Hospitalist

発行者 若松 博

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL：http://www.medsci.co.jp Eメール：hospitalist@medsci.co.jp
振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161
広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980
日本医学広告社 電話03-5226-2791
文京メディカル 電話03-3817-8036
福田商店広告部 電話06-6231-2773



9784895929455

(1部)定価：本体4,600円＋税
2016年年間購読料：19,008円(4冊、税込、送料弊社負担)

ISBN 978-4-89592-945-5

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【COPY】<社出版者著作権管理機構 委託出版物>本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に社出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。